

授業科目 神経系評価学実習

【担当教員名】 高木 昭輝	対象学年	3	対象学科	理学
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1単位	時間数	30時間

<一般目標：G I O>
理学療法が対象とする神経系障害に対して、神経学と理学療法の臨床の知から蓄積されている評価学を学生同士で体験する。

- <行動目標：S B O>
1. 理学療法が対象とする神経系障害の代表的な症状を病態生理学的に説明し、自分でその特徴を表現することができる。
 2. 自分で表現した特徴的な症状からどのような理学療法的評価をしたら良いか説明することができる。
 3. 代表的な神経系障害に対して、痛みを含む理学療法的評価の方法を列挙することができる。
 4. 他部門からの情報も考慮し、優先順位を含めて、評価順序を検討することができる。
 5. これまでの情報から、理学療法的治療のために問題点を列挙することができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 又は備考・担当教員
1	オリエンテーション		実習
2	神経系障害の代表的な症状を学生同士で体験する 1 (CVA, MS, ALS, Parkinson's)	1,2	実習
3	神経系障害の代表的な症状を学生同士で体験する 2 (Gullain-Barre, polio, SCI etc.)	1,2	実習
4	神経系障害の代表的な症状を学生同士で体験する 3 (.SCD, leprosy, CP etc.)	1,2	実習
5	2回目の例に対する理学療法的評価(診断)を考え、体験する。(8回目発表準備)	1,2	実習
6	3回目の例に対する理学療法的評価(診断)を考え、体験する。(8回目発表準備)	1,2	実習
7	4回目の例に対する理学療法的評価(診断)を考え、体験する。(8回目発表準備)	1,2	実習
8	すべての学生が個人発表を行う。	1,2,3	全員が発表を担当する。
9	2回目の例の他部門からの情報、優先順位を含め理学療法的評価(診断)を体験する。(12回目発表準備)	1,2	実習
10	3回目の例の他部門からの情報、優先順位を含め理学療法的評価(診断)を体験する。(12回目発表準備)	1,2	実習
11	4回目の例に対する他部門との情報を理学療法的評価(診断)学を考える。	1,2	実習
12	個人で説明と演示を行う。	1,2,3,4,5	実習
13	個人で説明と演示を行う。	1,2,3,4,5	実習
14	まとめ	1,2,3,4,5	講義と狹義
15	期末試験		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	理学療法の捕らえ方-clinical reasoning-	奈良	勲編集：文光堂	2001年：4800円＋税(予定)
参考書	理学療法技術ガイドブック		文光堂	2001年
	臨床理学療法マニュアル		南江堂ほかにも提示する。	1996年
その他の資料	カラーで学ぶ解剖生理学	州崎悦子 他	訳：医学書店	1998年：5600円＋税(予定)
	神経学的理学療法	真野行生監訳	2001年：医薬歯出版	4000円＋税 他に高木が補足資料を作成します。

【評価方法】 期末試験、授業貢献度、発表などを総合的に評価する。	【履修上の留意点】
-------------------------------------	-----------